



# ミュージアム・レター

Gakushuin University  
Museum of History

## Museum Letter 特別号



### 「学習院目白キャンパスガイド」

#### 学習院 目白キャンパス内の 国登録有形文化財をご案内します

学習院は明治10年(1877)に華族子女のための教育機関として華族会館によって設立され、その後同17年宮内省所管の官立学校となりました。以来キャンパスは神田錦町、虎ノ門、四谷へとかわり、同41年(1908)に目白へ移転します。

第2次世界大戦後、学習院は私立学校となり、再出発しました。新生学習院の中心として昭和24年(1949)に誕生した学習院大学も、平成21年(2009)には60周年を迎えます。

目白にキャンパスを移して100年余、日本の近代化の過程と多くの部分で重なる学習院目白キャンパスには、その時々の歴史を物語る文化財が数多く遺っています。この春にはそのうち7棟が文化財登録されました。目白キャンパスの魅力をご案内いたします。

#### ●学習院のキャンパスプラン

江戸時代の目白キャンパス地は高田村の一部でした。その時の名残を血洗いの池、道しるべなどに見ることができます。

目白キャンパスの設計は、文部省技師久留正道がおこないました。正門を中心に、西側は校舎などの教育ゾーン、東側は寄宿舍、総寮部(現乃木館)などの居住ゾーンに分かれ、その中心に図書館(北別館・現史料館)がありました。また目白通りの北側も学習院の敷地であり、馬場・厩舎などの施設がありました。

大正12年(1923)関東大震災で木造校舎の一部が焼失したため、鉄筋コンクリート造の理科特別教場(現南1号館)、中等科教場(現西1号館)が建設されました。これらは、震災後の復興計画で重要な建物であり、宮内省(現文部科学省)の建設に力を注いだものです。

学習院大学のキャンパスプランは建築家前川國男がおこないました。図書館はその代表的な建物です。現在は新たなキャンパスプランのもと、新教室棟が建築されています。

#### ●国登録有形文化財建造物について

私たちのまわりにある、遺してゆきたい風景、時代の特色をよく表した建物はかけがえのない文化財です。この文化財建造物を守り、地域の資産として活かすために、建造物を文部科学大臣が文化財登録原簿に登録する「文化財登録制度」があります。この制度に基づき、目白キャンパス内の建物7棟を文化財登録申請し、平成21年(2009)に登録されました。

文化財として登録された7棟は正門、乃木館(旧総寮部)、厩舎、北別館(旧図書館)、東別館(旧皇族寮)、南1号館(旧理科特別教場)、西1号館(旧中等科教場)です。

皆様に、緑豊かなキャンパス散策をお楽しみいただければ幸いです。

(長佐古美奈子)